

# 山形県公立大学法人 教育振興会会報

令和4年度 No.2

(通巻第175号)

令和5年1月20日発行

発行所  
山形県公立大学法人 教育振興会  
〒992-0025 山形県米沢市通町6-15-1  
電話 0238(22)7330(代)  
FAX 0238(22)7333  
印刷所 有限会社 富士印刷

10月8日～10日 3年ぶりに吾妻祭を開催しました！



学長あいさつ



キッチンカー



部誌販売



部誌展示



バンド演奏

## 合格等体験談

### 合格までの道のり



山形県立米沢女子短期大学  
国語国文学科  
二年 岩崎 菜々美

私が編入学を志望する方にお勧めすることは三つあります。一つ目は他学科の講義も積極的に受講することです。自らの知見を広げること、様々なテーマでレポートを書く機会を与えられたことにより、思考力と文章力がつき、成長したと実感しています。これは特に一年次において私のように志望する大学や分野が定まっていなかった方にお勧めです。二つ目は徹底的に調べることです。早稲大各大学の試験方法・試験科目・試験日等を網羅的に見比べて希望する条件に合った大学をピックアップして見てください。試験に向けて準備するべきこと、短大で受けるべき講義が分かれます。最後に先生方に頻りに相談することです。先生方との対話から学ぶことや発見することはとても多く、大変助けになりました。編入学試験の準備は孤獨になりがちかもしれませんが、ふさぎだまらずに周りを頼って、進路実現に向けて頑張ってください。応援しております！

### 就活を経験して



山形県立米沢女子短期大学  
英語国文学科  
二年 駒澤 美唯

一年生の三月から本格的に企業説明会を聞き始めました。十数社聞いた上で「地域活性化」を軸に進みたいと考えました。中学時代の農協の職場体験で「地元が誇る農産物を広くお客様に届ける」というやりがいを得たことから、地元の農協を就職活動の中で特に大切だと思ったことは、「自己分析」です。過去の経験や長所・短所などは、自分で分析して理解していなければ履歴書や面接で自分の言葉に伝えないことが出来ません。自分のこれまでの歩みを知ることが、その中からやりたい職業、そしてより深く熱意のある志望動機を見出せました。就職活動は誰でも不安です。キャリアセンの先生方と共に対策を着実にこなしていけば、目標とした進路を実現できるはずだと思います。後輩の皆さん、まずは一歩踏み出してください。

### 就活を通って



山形県立米沢栄養大学  
健康栄養学部 健康栄養学科  
四年 三浦 愛梨

私はこの度、篠田好生会篠田総合病院に内定をいただきました。就職活動を通して、その基礎となるのは自己分析であると感じました。自分をアピールする為、まずは自分をよく知ることが大切だと思います。そこで、生まれてから現在までの「自己史」を作るの傾向を掴むことができ、長所・短所や性格や行動の傾向を掴むことができ、長所・短所の明確化や自分に自信を持つことへ繋がりました。もし就職中に、将来への不安を感じた時、本当にしたい事が分からなくなった時は、この学校や栄養士・管理栄養士を目指すと思った瞬間を思い出してほしいです。そしてできるだけ早くから自己分析をする、履歴書を書く等始めてみることをお勧めします。在学生の皆さんの進路を応援しております。

## キャリア支援センター便り



キャリア支援センター  
エンプロイメントアドバイザー  
伊藤 喜久子

令和四年四月から毎週木曜日にキャリア支援センターで管理栄養士の就職アドバイザーとして勤務しています。学生の皆さんの相談に乗るながら、管理栄養士の仕事の幅の広さ、奥深さを改めて知ることができ自分自身のブラッシュアップになっています。

相談に来る皆さんから感じることは、「真面目、一生懸命」そして、自分の将来や管理栄養士の仕事について「よく考えて」相談に来ているということ。これらのことが企業にも伝わり、「栄養大学の学生を採用したい、ぜひ来てほしい」と、内定者率の高さに繋がっていると考えています。

昨今の求人は病院や施設、給食委託会社に加え、歯科医院、各クリニック、調剤薬局、ドラッグストア、保育事業を手掛ける企業、食品会社と多種多様で、管理栄養士に求められる役割や業務の幅も広がってきていると感じています。このことは米沢栄養大学を卒業された先輩方はじめ、諸先輩方の努力と業務が評価された結果であると思います。

学生の皆さんが、社会人としてデビューし、管理栄養士の専門職として仕事をしていく準備に関わる私達は、皆さんの希望や不安に耳を傾け、よりよい選択ができるように支援していきたいと思っています。

## OGの話聞く会(編入学・公務員・就職編)を振り返って

山形県立米沢女子短期大学  
キャリア支援委員会委員長 亀ヶ谷 雅彦

キャリア支援センターが主催するOGの話聞く会は編入学、公務員、就職の進路別に開かれます。具体的には、四年制大学に編入したり、公務員、民間企業に就職した本学出身の先輩を数名ずつお招きして、会の前半では一人ずつ先輩からお話を頂き、会の後半ではグループに分かれて質疑応答を行います。

今年度はオンライン開催でしたが今年度は対面形式に戻り、編入学編は七月二十三日に二年生を対象に、公務員編は十一月十一日、就職編は十一月十八日に一年生対象で開催しました。

## 新年のご挨拶と近況報告



山形県立米沢栄養大学  
学生部長 金光 秀子

新年明けましておめでとうございます。米沢栄養大学、米沢女子短期大学の在学生および保護者の皆様にとりまして、良い年になりますようお祈り申し上げます。

昨年新型コロナウイルス感染症は、第六波一旦沈静化したものの第七波から八波になり、三年目のウィズコロナの生活を余儀なくされました。そのような状況下において両大学では、感染予防対策をしながらの対面授業を継続いたしました。新型コロナウイルス感染症が始まった令和二年度に入学した栄養大学の学生は、入学当初から学友との接触もままならない環境におられました。三年生となった昨年は少

## せきれい

いつからか、孤独を欲するようになった。つまり、一人で居ることに居心地の良さを感じ、過剰な他者との関わりを億劫に感じるようになったようだ。これは、新型コロナウイルス感染症の渦中で制約的な日常生活を送っているからなのか、多忙な日常に疲弊しているからなのか、あるいは職場の人間関係に起因しているのか、わからない。いずれが原因であるか明確に言い切れず、またいずれかが全くの無関係であるとも言えない。ただ、結果として孤独で居たいのだ。

浸って他者に対するレッテル貼りに動んで居たら良い。それは、個人の自由であり勝手にして居れば良い。私は、「孤独で居たい」という欲求やそれを求める行動は、現象であり本質ではない」と捉える。孤独で居る時間とは、日常の中で最も個が尊重される瞬間であり、他者からの干渉を受けることなく、自らの思想世界に浸って快楽に溺れて居られるものであると考える。孤独で居る時間こそがその潜在的な能力を引き出してくれる。そういう時間に研究や仕事をやるのだと思う。そのような、孤独の本質を享受することに居心地の良さを感じるのだらう。

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。二〇二三年が皆様にとってより佳き一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。昨年に引き続き、「正しい情報を取り込み、正しく警戒をする」でウィズコロナ実践していきたいものです。次号は、今年度最後の号となり、卒業を控えた学生の声と進路状況についてお送りする予定です。(書記)

## 米沢市・HOYA(株) アイケアカンパニーと協定を締結しました



令和四年十月十四日、米沢市・山形県公立大学法人・HOYA(株)アイケアカンパニーは、「使い捨てコンタクトレンズケースの回収に係る三者協定」を締結しました。これは、HOYA(株)アイケアカンパニーが展開する「アイシテicoプロジェクト」の目的と、米沢市・山形県公立大学法人の包括連携協定における環境保全に関する連携・協力が相まって締結されたものです。協定締結式では、山形県立米沢女子短期大学の学生によるプレゼンテーションも行われました。

# 新任のごあいさつ



山形県立米沢栄養大学  
健康栄養学部健康栄養学科  
助手 大津 佑太

今年の六月より米沢栄養大学健康栄養学部健康栄養学科の助手として勤務しております。大津佑太と申します。神奈川県で生まれ育った私は初めての東北地方で、米沢市の豊かな自然がもたらす美しい景観と、りんごや牛肉などの豊かな食を楽しみながら業務に励んでおります。

今年度は食品学実験、調理科学実験、臨床栄養学実習ⅠおよびⅡ、また、臨地実習Ⅰ（給食経営管理論）、県立病院との連携事業、国家試験対策などの助手を担当いたします。円滑で安全な実施のサポートに尽力して参ります。保護者の皆様や法人教職員の皆様におかれましては、何卒ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

研究面では、これまで実験における生化学・分子生物学的手法や調査における疫学的手法を、少しずつ学んできました。今後は管理栄養士として、食品加工学や栄養教育学などのより実践的な分野にも挑戦していきたいと思います。また、公立大学の職員として地域にも貢献できるように励んで参ります。

# 実習を終えて

## 臨地実習（病院）を終えて



山形県立米沢栄養大学  
健康栄養学部 健康栄養学科  
四年 酒井 琴菜

七月に国立病院機構米沢病院で実習をさせていただきました。特に印象に残っていることは給食の充実です。米沢病院は長期入院の方が多いため、給食でも日常の食事を楽しみなが、しっかりと食べてもらえるような様々な工夫がなされていました。例えば、麺類をよく食べる置賜の食文化から、冷やしラーメンなどが提供されていました。当たり前の暮らしを食で支え、治療にも繋げながら日々の楽しみにもなるという病院食の奥深さを知ることができました。実習を通して対象者の気持ちに寄り添うこと、多職種連携のために専門の仕事は勿論、それ以外の仕事にも挑戦していくことが大切であると感じました。生涯学習の意識を持ち、様々な経験をしながら人の役に立てる管理栄養士になれるよう、今後も努力していきます。

## 臨地実習（公衆栄養学）を終えて



山形県立米沢栄養大学  
健康栄養学部 健康栄養学科  
四年 柏倉 都

私は東根市総合保健福祉施設さくらんぼたんクトルセンターで五日間実習をさせていただきました。実際に現場を見学させて頂き、行政栄養士の役割や地域への働きかけについて深く学ぶことができました。実習で特に学んだことは、「情報を正しくわかりやすく伝えることの大切さ」です。世の中で話題になっている栄養・食事にに関する情報や市民の食生活に関する質問に対し、管理栄養士は誤った情報を伝えないよう、常に新しい情報に目を向け、根拠に基づいたうえで正しい情報を正しく伝えること、相手の生活状況を考慮して寄り添い、わかりやすく伝えることが大切だと感じました。実習を通して、常に正しい情報を得るためには周りの人や同じ職業間での繋がりが大切であると知りました。今後管理栄養士として働くにあたって、学び続ける姿勢と周りの人との連携を大切にしていきたいと思っています。

# 第28回吾妻祭 Break through



山形県立米沢女子短期大学  
英語英文学科  
二年 早坂 莉野

吾妻祭とは米沢女子短大、米沢栄養大、山形大学工学部の三大学合同の学園祭です。

今年の吾妻祭は三年ぶりの開催ということで、今年までの吾妻祭に加えて新型コロナウイルス感染症対策も考慮しての開催を考える必要があり、とても大変でした。また、吾妻祭が開催されていた頃のことを知っている実行委員が一人もいなかったのにもかかわらず、吾妻祭というものをイメージするのが難しかったです。

当日は豪華アーティスト、芸人の方や地元飲食店、雑貨屋さんなどにも一緒に吾妻祭を盛り上げていただきました。米短会場では過去最高の約500人の参加者を記録し、小さなお子さんからおじいちゃん、おばあちゃんまで、老若男女問わずご来場いただきました。

実行委員は半年以上前から吾妻祭開催に向けて準備を行ってきました。何度もコロナ感染者数が増減し、今年も吾妻祭を開催できないのではないかとこの時期や当日お客様が来てくれるのだろうかという不安もありましたが、吾妻祭を無事開催し成功させることができたのは沢山の方々のご協力があったからです。本当にありがとうございました。

## 教育実習を終えて



山形県立米沢女子短期大学  
日本史学科  
二年 伊藤 寧々

二年生の五月から六月にかけて、出身中学校で三週間の教育実習をさせていただきました。この実習を通して私が得たものは、たくさん「気づき」でした。その多くは、わかりやすく楽しい授業を行うことの難しさ、一つの授業を作り上げる大変さなど、教師という仕事に関するものでした。更に何よりも実習を経験してよかったと感じたことは、自分の良い点、悪い点を知ったということです。改善点を指摘いただいた後に落ち込むこともありましたが、生徒達からの声掛けに支えられたり、実習生同士で励まし合ったりと、今思い返すととても充実していました。この三週間は私自身を成長させ、今後の進路を決める上で大変意味のある時間でした。これから実習に臨む方々にとっても、たくさん「気づき」や「実り」のある時間になることを願っています。

## 思いやりをもって



山形県立米沢女子短期大学  
国語国文学科  
二年 遠藤 瑤子

私は救護施設で五日間の実習をさせていただきました。実習中は、施設について担当の職員の方から教えていただき、実際のお仕事も体験しました。初めて経験することばかりで、最初は戸惑うことも多かったのですが、支援を重ねていくにつれて、利用者さんから声をかけられたり、笑顔を目にしたりする機会が増え、とても嬉しかったです。お別れの際に、「体に気をつけて、夢に向かって頑張ってください」と、施設の皆さんが手を振って見送ってくださいました。これは、私の一生の思い出です。この体験を通して、自分の価値観に囚われず、思いやりをもって柔軟に行動することの大切さを学びました。今後も、自分の視野を広げるための学習、挑戦を続け、思いやりのある人物になれるように努めていきたいです。

## インターンシップを終えて



山形県立米沢女子短期大学  
英語英文学科  
一年 井上 萌子

私は村山総合支庁総務課にインターンシップに行きました。一番記憶に残っているのは、やりがいのある仕事は会議の準備から最後まで一貫して行ったことです。会場準備や出席者の案内をして、会議中にはメモを取ったり、カメラで写真を撮ったりしました。会議後は片付けと議事録作成を行いました。いろいろな仕事を少しずつ体験させていただくのも良い経験でしたが、一つの仕事を一貫して行ったことで普段感じることのできない大きな達成感を感じることができました。それに加えて、限られた時間の中で準備をしたり、議事録を作りやすいようにメモを取ったりなど先を見越して優先順位をつけることが大切なのだと思ふことができました。お忙しい中インターンシップを受け入れてくださった村山総合支庁の方々には感謝をしつつ、学んだこと身につけたことをこれから活かしていきたいです。

## 公務員インターンシップを終えて



山形県立米沢女子短期大学  
社会情報学科  
一年 須田 千尋

夏休みに米沢市役所社会福祉課でインターンシップを行いました。一日目と二日目は障害者福祉を担当するところに、三日目は生活福祉を担当するところにお世話になりました。一日目は事業説明を聞いた後、窓口対応をしたりと、環境に慣れるのに精一杯でした。二日目は米沢三中に訪問し、中学生が障害者の世界を体験し、接し方を学ぶという目的で行われる体験学習の手伝いをしました。主に車椅子体験の手本や白杖体験の誘導を行い、最後には障害をもっている当事者としてスピーチをしました。楽しみながらも真剣に向き合っている中学生を見て、福祉に貢献できているという喜びが湧きました。三日目はデイサービス施設を訪問し、高齢者福祉の現状を学びました。今回の三日間のインターンシップを経て、働くことの大変さややりがいを実感したことはもちろん、自分の想像と現実とのギャップが埋まったことは大きな収穫でした。米沢市役所の皆さん、本当にありがとうございました。

# 公務員インターンシップ

## 話題の本

出版物の紹介 著者/米沢女子短期大学 日本史学科 布施賢治

布施賢治『「日本型」育英事業の思想—尚武と錬成の近代』  
(日本経済評論社、2022年10月発売) 328頁、5940円

本書は、なぜ近代日本における就学支援事業が、教育の機会均等を実現する「奨学」事業としてではなく、成績優秀な青年男子が都市の高等教育機関や軍学校へ入学することを目的として学資が貸与される「育英」事業に発展したのかという問題について、第一次世界大戦期の欧米における就学支援事業との比較をまじえながら検討したものである。日本の就学支援事業が欧米に多くあるような国家・地方行政さらには民間社会ではなく、旧藩社会や士族による「武士の育英事業」として形成・発展したため、「尚武」と「錬成」を近代教育にのびこませ、「武士の育英事業」の理想とする「郷土」を作り出すとともに、戦争協力につながる「郷土」の概念および青年の意識を養成することにつながった。本書ではその歴史と実態について、主に山形県の育英団体や大日本育英会の事例を中心に、近世から連続する地方と国家の育英事業史を検討し明らかにしている。今日の日本社会において奨学・就学支援事業をめぐるニュースは毎日のように報道されているが、これからの就学支援事業はどのように行われることが最善なのかについて考える契機となる書である。

# 図書館通信

○開館時間/平日 9時～19時  
土曜 9時30分～16時  
○休館日/日曜、国民の祝日、他